

# 決算特別委員会

(2・3ページ) 平成16年度一般会計歳入歳出決算の審査状況から、主なものをお知らせします。

## 賛成討論

**市民フォーラム**  
平成16年度の市財政については、過度な剰余もなく、適度な歳入歳出のバランスを実現した決算と評価する。

歳入では、競走事業会計からの繰入金14億円となり、前年の5億円から大幅な伸びとなったことは、市民の福利厚生の上で大きな役割を果たした。

歳出では、既存事業の徹底した見直しを行いつつ、新しい市民ニーズに対し、子育て支援策をはじめ、福祉、教育、環境、観光などに積極的な施策が展開された。

新規事業の実施や事業のレベルアップを図るなど、行政サービスの向上に努めてきたことを評価し、本年度決算に賛成する。

**府中市議会市政会**  
平成16年度は、市制施行50周年という節目の年であったが、野口市政は、これを未来への礎とするため、市民の力を結集し、美しい風格のあるまちづくりに向け、20事業の新規施策を立ち上げ、27事業のレベルアップと26事業の見直しを行っている。

また、市民福祉の質を低下させることなく、かつ少子社会に対応した子ども家庭支援センター「たつち」の開設をはじめ、福祉、教育、観光、環境などの面で数々の施策を展開した。

本決算は、各項目で積極的かつ充実した内容であり、市政の発展と市民要望の実現を目指し、多くの施策を展開した成果を評価し、本年度決算に賛成する。

## 反対討論

**日本共産党府中市議会議員団**  
平成16年度は、3年目を迎えた小泉内閣による構造改革が、本格的に国民と地方に痛みを押し付ける年となった。

そのような中、市は、都の削減に便乗した指定疾病者福祉手当の削減を行い、3種の疾病が17人が対象外となり、延べ2217人が対象から外された。

学校給食の民間委託は、食教育の観点から見て、わずかな経費削減で失ったものは大きく、更なる拡大は行わなければならない。

今、市民の暮らしの実態がますます厳しくなっている。市財政の見通しが好転すると予想される中、一層の市民サービスの充実に向けた市政への切換えを求め、本年度決算に反対する。

**生活者ネットワーク**  
活力のあるまちを創り上げるためには、市民との協働の道しかなく、行政と市民とがパートナーシップを組んで行動することを強く望むものである。

しかし、市民会館・中央図書館複合施設計画では、PFIという手法は分かりにくく、市民への情報公開、市民との話し合い等、多くの課題が残されている。

また、市は府中市組織条例の中から男女共同参画の言葉を削ったが、男女共同参画の更なる推進が各方面で必要であることは明白である。

男女共同参画への認識や、市民との協働の進め方が不十分であると考へ、本年度決算に反対する。

## 歳入

### 法人市民税 増収の背景は

**委員** 法人市民税収入は、対前年度比21・8%の増となっているが、この要因及び業績が好調な業種を聞きたい。

また、逆に個人市民税の収入額は、3%の減となっており、法人の収益の伸びが、個人市民税に反映されていない状況を、市はどのように考えているか。

**市民税課長** 景気の回復によるものではなく、法人の不動産や株式の売却及び欠損金の解消などの特殊な事例によるものである。また、好調な業種は、情報関連企業や不動産業者等である。

個人市民税については、法人の利益が個人の所得に、十分還元されていない状況と認識している。

### 生涯学習プール使用料収入 運営経費に占める割合は

**委員** 生涯学習センターの温水プールの使用料収入について、同プールの運営経費に占める割合を聞きたい。

また、市の使用料算出基準に基づき、2年後に使用料が改定されるが、これにより収入割合はどうか変化し、サービスマンで向上するものがあるか。

**生涯学習課長** 温水プールの運営経費は、1億3800万円、使用料収入の占める割合は18・8%であるが、平成18年度からはこれが約28%になると見込んでいる。

サービスマンの上昇では、1割引のプリペイドカードを発行するとともに、来場者へのワンポイントレッスンを検討している。

## 歳出

### 大腸がん検診 実施方法の変更内容は

**委員** 大腸がん検診は、早期発見、早期治療をする上で、大変重要な事業と考へる。

同検診事業は、平成16年度に検診対象者枠を拡大し、実施方法も変更になったが、その内容について聞きたい。

また、検体回収を夜間にも実施する考えはないか。

**健康推進課長補佐** 15年度までは、医師会に検診を委託していたが、16年度からは、保健センターで実施することとし、人間ドックの検査機械を使用し、センターの臨床検査技師が、直接、検査を担当することとした。

検体の精度等の問題もあるため、今後、検討していく。

### ボールふれあいフェスタ 成果と今後の方向性は

**委員** 市制施行50周年を記念して、地元企業スポーツ選手を招いて、「ボールふれあいフェスタ」が、味の素スタジアムで開催された。

この成果と今後の方向性を聞きたい。

**体育課長** 市内の5つのトップ企業チームに協力を願い開催し、8700人も参加があった。

一流の選手との触れ合いを通じて、子ども達に夢と希望を与えられる事業であり、平成17年度も引き続き、総合体

### 1億円の特別枠予算 その内容と成果は

**委員** 平成16年度も、15年度に引き続き、1億円の特別枠事業が予算化され、決算では7962万円となっている。

この事業の内容とその成果を聞きたい。

**財務部次長** 16年度の特別枠事業の主なもの、観光案内所及び公衆トイレの建設事業に4576万6000円、子育て支援中核施設の遊具等制作費に870万4500円、生涯学習センターの塩素を不使用のプール除菌設備改修に501万7000円等を支出した。

この事業は、組織の活性化を促すとともに、職員のアイデアを活かす効果があったものと考えられる。

### 市政ディレクター 建築行政への提言内容は

**委員** 建築基準行政担当市政ディレクターから、美しい風格のあるまちづくりの実現に向け、まちづくりと建築行政の課題と対応策に関する提言書が作成されたが、その内容と実施に向けての考えを聞きたい。

**建築指導課長** 内容の主なもの、大規模な土地利用展開の対応として、地区計画の活用や景観づくりへの誘導、マンション開発に対する対応など、まちづくりの課題全般を整理したものとなっている。

提言は、本市の建築まちづくり行政の課題を網羅した貴重な意見と評価しており、同ディレクターを再任し、具体的な対応策を検討している。



▲ボールふれあいフェスタから

育館で実施した。これからも企業チームの日程等調整する必要があるが、地元企業チームという面から引き続きお願いをし、この事業を進めていきたい。